

このところ、ようやく日差しに春らしい暖かさが感じられるようになり、一步一步春が近づいてきているようです。この早春の佳き日に、多数のご来賓並びに保護者の皆さまに、卒業式にご参列いただきありがとうございます。

ただいま卒業証書を手にした卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの門出を心からお祝い致します。

6年前に中学1年生として入学したときには、まだあどけなさが残る少年たちでしたが、今日、卒業生の皆さんを目の前にすると、この6年間ですっかり成長し逞しく立派な青年となったと感じます。皆さんの脳裏には、この6年間の思い出が次々に蘇っているのではないのでしょうか。中学入学直後に実施されたクラス合宿、友達ができるかどうか不安だったかも知れませんが。逗子開成ならではの OP 帆走実習や遠泳、本当は嫌だと思っていた人もいたはずですが。そして、まさしく異文化体験であった NZ 研修旅行やアジア研究旅行、青春のエネルギーに満ち溢れた体育祭や開成祭。クラブ活動や日々の授業など、実に多くのことを学び体験してきました。楽しかったこと、辛かったこと、嬉しかったこと、悩んだことなどすべてが、皆さんの成長の糧となったはずですが。

さて、皆さんは卒業すると各自が選択した進路に従って第一歩を踏み出すことになります。今回の選択は、どのような大学や学科にするかということが中心だったのではないのでしょうか。これから先、様々な場面で何かを選択することになるでしょう。何を自分の専門とするのか、留学するかどうか、就職か進学か、結婚、転職などなど選択する場面はたくさんあります。

今まで、何かしたいことがあったのにそれを選択することに迷い、何らかの理由をつけてやらなかったことはありませんか。もし、これから先本当にやりたいことが見つかったら、躊躇せずそれを選択してください。

皆さんは、2016年の本屋大賞第1位に選ばれた宮下奈都さんの「羊と鋼の森」という小説を読んだことがあるでしょうか。この小説は、ピアノの調律に魅せられた一人の青年が、調律師として、人として成長する姿を綴った作品です。

この小説の主人公の青年は、ピアノの調律の仕事をやっとやらせてもらうようになったものの、なかなか思うようにいかず調律するのが怖くなり仕事を続けるかどうか悩みます。そこで先輩の調律師に相談する場面でこんなやり取りがあります。

「怖くなかったですか。駆け出しの頃、もしもこのまま調律がうまくならなかったらどうしようかと思いませんでしたか」

「いいんじゃないの。怖けりゃ必死になるだろ。全力で腕を磨くだろ。もう少しその怖さを味わえよ。怖くて当たり前なんだよ。・・・。」

「調律にも、才能が必要なんじゃないでしょうか」

「そりゃあ、才能も必要に決まってるじゃないか。才能っていうのはさ、ものすごく好きだっていう気持ちじゃないか。どんなことがあっても、そこから離れられない執念とか、闘志とか、そういうものと似てる何か。俺はそう思うことにしてるよ」

そして、青年はある決意をします。

「才能があるから生きていくんじゃない。そんなもの、あったって、なくなっても、生きていくんだ。あるのかわからないのかわからない、そんなものにふりまわされるのはごめんだ。もっと確かなものを、この手で探り当てていくしかない」

自分には才能がないから、まだ環境が整わないからとか、やらない理由を見つけるのはやめ勇気を持って前に進みましょう。年齢を重ねるとやっとうまくいかなかったことより、やらなかったことについて、あのときやっておけばと悔いるものです。世の中にははずば抜けた才能を持った人がいるかも知れませんが、ほとんどの人は大きな差がありません。選択したらとことんやってみることです。

2011年3月11日の東日本大震災のことは皆さんも鮮明に覚えていることでしょう。丁度皆さんが中学に入学した年です。この大震災や津波で、皆さんの同世代の多くの子供たちも犠牲となりました。もし何事もなければ、彼らもたくさんの夢や希望を持って卒業式を迎えたことでしょう。彼らにはもう何かを選択することができません。それを思えば、自ら道を選ぶことができる皆さんは幸せです。是非、自分の目標や夢に向かって突き進んでください。挫折や失敗を経験するかも知れませんが、しかし、そこから学ぶことはたくさんあります。

もちろん、自分の夢を実現するためにただ情熱ややる気さえあれば良いという訳ではありません。そのための知識や技術、経験やそれを生かす知恵などが必要です。

中学3年で実施した遠泳のことを思い出してみてください。中学入学後すぐに海岸に行き1.5km泳ぎなさいと言われたら、ほとんどの人は泳げなかったでしょう。しかし、中学3年の遠泳という大きな目標に向け、学年ごとに小さな目標をクリアしながら、少しずつ段階を踏んで練習をしたことにより1.5kmという距離を泳ぐことができました。たとえ泳ぎが苦手であったとしても、地道に

練習を重ねたことによって目標を達成できたのです。日々の学習においても同様です。やはり、時間をかけ努力したものは結果がともなっているはずですが。

現在の世の中は技術革新の速度が速く、グローバル化も一気に進んだかと思うと保護主義的な動きがあったり、どのような未来になるのか予測が難しい時代です。また、情報が氾濫し何が重要で何が真実なのかを見極めるのも難しくなりました。

このように変化の激しい時代に対応するには、自ら学び、そして学び続けることが必要です。受験が終わったばかりなのに、まだ学び続けるかとかっかりした人もいるかも知れません。受験勉強は辛いことが多かったと思いますが、本来学ぶというのは楽しいことなのです。皆さんは学ぶことにより、今まで知らなかったことを理解し、できなかったことができるようになります。また、色々な人達の思想やアイデアに触れることができます。そして、学習するというのは人類の最大の強みであり、人類がここまで進化発展できたのもそのためではないでしょうか。人類が今まで蓄積してきた知識や技術、経験、思想などにより現在の社会が存在するのです。残念ながら過去の歴史に学ぼうとしない人たちもいるようですが、皆さんには過去から学び、それを未来に生かして欲しいものです。是非学び続けることを忘れないでください。

逗子開成の教育の原点は、校名の由来ともなっている「開物成務」にあります。これは“人間性を開拓・啓発し、人としての務めをなす。”という意味でした。この「開物成務」の精神に基づき、高い目標を掲げ、困難にあっても挫けることなく、自分の未来を切り開いていってください。逗子開成の6年間で学んだことや体験したことは、皆さんのこれからの人生を歩む上で大きな力になると信じています。何かに躓き挫けそうになったときには、逗子開成で苦楽を共にした友人や恩師の先生方が励ましてくれるでしょう。そして、皆さん一人ひとりも誰かに必要とされる存在になってほしいと思います。私は、卒業生の皆さんの幸せを祈るとともに、皆さんが将来、人類の未来に少しでも貢献することを願っています。

最後になりましたが、卒業生の保護者の皆様。本日はご子息のご卒業、本当におめでとうございます。また、今日まで本校の教育活動にご協力、ご理解をいただきありがとうございました。

それでは、267名の卒業生の皆さん一人ひとりの旅立ちを祝うとともに、これからの健闘と活躍を祈り式辞と致します。

卒業おめでとう。